プロジェクト報告

量的テキスト分析による現代中国政治研究

林　載　桓

1．プロジェクトの趣旨と実施計画

本研究の目的は、現代中国政治研究における量的テキスト分析の効用を実証的に検討し、その可能性と課題を確認することである。2010年代以降、量的テキスト分析を用いた研究が社会科学の諸分野で増加しているが、中国研究において同分析は、「古くて新しい」方法である。本研究では、(1) 同手法を用いた源流にあたる中国研究の存在とその後の相対的縮小、(2) 近年の再興の量的把握とその特徴、(3) 同手法による代表的な応用例と貢献、(4) 更なる可能性と課題を検討する。具体的に、冷戦期の共産主義国家の研究で同手法が採用された背景、そして1980年代以降の新たなデータ環境の下で同手法が下火となったことを確認した上で、2010年代以降に採用例が急増していることを論文データから実証的に示す。本研究の考察を通じて、量的テキスト分析による現代中国政治研究が、検閲と情報操作をはじめとする中国の権威主義体制のメカニズムを解明する上で重要な貢献をしてきたことを明らかにしたい。

さらに本研究プロジェクトでは、若手研究者の実証研究を通じて量的テキスト分析の課題と可能性について議論することをもう一つの目的とする。プロジェクトのメンバーは、その全員がすでに量的テキスト分析を実装した経験を持っており、主に習近平政権期中国の政治経済の現状分析を行ってきた。そこで、本研究会を、各メンバーの最新の研究成果を報告する場とし、同分析手法の効用と現代中国の政治経済に関する知見を共有することを目指したい。なお、研究活動を行うにあたっては、現地での資料調査が困難な状況に鑑み、中国での最新の研究成果を把握するため、中国の学術雑誌データベース（CNKI）を継続的に導入し活用して行く。

2．プロジェクトの実施状況

本年度は、外部研究者による講演会と代表者による研究報告会を、対面（1回）とオンライン（リアルタイム、3回）の形式で実施した。2024年8月23日に行われた第1回定例研究会では、慶應義塾大学の呉茂松准教授が「近現代中国政治空間における知識人と『市民の主体性』の模索の系譜」というテーマで報告を行った。当報告では、現代中国の政治社会における知識人の役割が特に「市民の主体性」に関する言説空間の創出にあったことを、主要国有メディアのテキスト分析を通じて明らかにした。

次に、2024年10月29日の第2回定例研究会では、東北大学大学院法学研究科助教の高暁彦氏が「毛沢東時代の統治と民兵：社会主義建設期に着目して」と題する研究報告を行った。当報告では、毛沢東時代の社会主義建設プロジェクトにおいて民兵が果たした役割を、各地の档案館を回って収集した地方誌の丹念な分析を通じて明らかにした。

2024年12月9日に開催された第3回目の定例研究会では、研究代表者の林載桓が「権力の個人化と軍:習近平は人民解放軍の戦闘能力を向上させたのか」と題する報告を行った。当報告では、2015年より開始された軍事改革のプロセスを振り返り、習近平個人への権力と権威の集中を通じて断行されたラディカルな組織再編により、人民解放軍の作戦能力を高められる体制を整っていく過程を分析した。改革プロセスの分析に当たっては、公表済みの資料のほかに、多様なルートを通じて収集された一次資料を用いた。

最後に、2025年1月15日に開催された第3回目の定例研究会では、オーストラリアのモナシュ大学（Monash University）の平田康治准教授（Senior Research Fellow）が「毛沢東期中国における社会主義工業化と満州：鞍山鋼鉄公司を事例に」と題する研究報告を行った。当報告では、中国共産党の档案館文書や、旧ソ連、アメリカ、中華民国の一次資料を用い、共産党と企業の関係の起源をめぐるこれまでの通説を全面的に再検討する知見を提示した。

〈定例研究会：外部講演〉

(1) 第1回定例研究会

・日時：2024年8月23日（金）

・形式：対面（学習院大学・目白キャンパス）

・報告者：呉茂松（慶應義塾大学）

・タイトル：「近現代中国政治空間における知識人と『市民の主体性』の模索の系譜」

(2) 第 2 回定例研究会

・日時：2024年10月29日(火)

・形式：オンライン（リアルタイム）

・報告者：高暁彦（東北大学）

・タイトル：「毛沢東時代の統治と民兵：社会主義建設期に着目して」

(3) 第 3 回定例研究会

・日時：2024年12月 9 日(月)

・形式：オンライン（リアルタイム）

・報告者：林載桓（青山学院大学）

・タイトル：「権力の個人化と軍：習近平は人民解放軍の戦闘能力を向上させたのか」

(3) 第 4 回定例研究会

・日時：2025年 1 月15日(木)

・形式：オンライン（リアルタイム）

・報告者：平田康治（オーストラリア・モナシュ大学）

・タイトル：「毛沢東期中国における社会主義工業化と満州：鞍山鋼鉄公司を事例に」

3．プロジェクトの成果と得られた知見

① 現代中国政治研究をめぐる資料状況

本研究プロジェクトの根底には、2012年に成立した習近平政権の下で、現代中国政治(史)研究のための資料の収集・活用が著しく悪化したという状況がある。ゼロコロナ政策による渡航制限以前から、档案館が非公開となるケースが増え、また外国人によるアンケート調査やインタビュー調査は実施が極めて困難になってきた。このような状況は、内部資料への最低限のアクセスを許容されている中国国内の研究者より、外国に基盤を置く研究者の場合、特に深刻である。さらに近年では、日本の研究者が中国滞在中に拘束、尋問、監視されることが常態化される中で、現代中国研究を持続すること自体が困難になりつつある。例えば、中国共産党のエリート政治を分析対象とする代表者の場合、中国国内での関連資料の収集や研究者・有識者へのインタビュー調査は事実上不可能な状況にある。このような状況下で、日本の中国研究がこれまでに蓄積した豊富な質的知見を活かし、いかに重要な研究課題の解明につなげて国際発信していくかが問われている。

② 現代中国政治研究とオルタナティブ資料の可能性

このような状況において、本プロジェクトの参加者はそれぞれの分野で利活用可能なテキスト資料の発掘・収集を進めてきた。4回にわたって行われた研究会では、既存のチャンネル・手法を通じての資料収集やデータ生成の可能性が事実上閉ざされている中で、オルタナティブな資料の開発・収集を試みた研究である。それを通じて、例えば各地の地方誌は中国現地ではまだアクセス可能であり、ある程度体系的な資料の収集・蓄積が可能であることが明らかになった。他にも、内部資料の場合、米国や台湾などの資料館、またはデータベースを活用することも可能であり、それを通じて一定程度の知見を生み出すことが可能であることが明らかになった。

権力の個人化と軍部
習近平は人民解放軍をどのように変化させたか



林載桓（2024. 12. 9）

1

講演者紹介

- 主要な研究分野：現代中国の政治経済、比較権威主義論、エリート政治、党軍関係
- 最近の研究分野：習近平政権期エリート政治の変容とその政治、経済、政策的帰結

2



プロジェクトの概要 Project overview

本プロジェクトでは中国のテキストデータと経済データを用いて、実証的に政治経済を分析しています。

This project empirically analyzes Chinese political economy based on textual and economic data.

Empirical Research on Xi Jinping Texts: A Political Economy Project

3

本報告の問い

- 習近平個人支配の形成において**人民解放軍が果たした役割**は何か？
- 習近平の軍事改革は**人民解放軍をどのように変化**させたか？
- 習近平個人支配の確立は**人民解放軍の戦争遂行能力**にどのような含意を持つのか？

4

習近平個人支配体制の形成と確立

- 第3期習近平政権の発足→個人支配の確立
- 習近平個人支配体制の形成と確立：最大の政治的変革でありながら「謎」（Shirk 2022; Ang 2023）
- **権力の個人化はなぜ可能だったか？**

5

個人支配体制の形成：比較権威主義論の視点

- **権力の個人化** *power personalization*とは何か？
  - 「独裁者が体制に対する支配を強化していく過程」（Geddes et al. 2018; Svolik 2012）
  - 独裁者とエリート間の権力共有*power sharing*の崩壊（独裁者個人に権力が集中し、エリートの権力が低下）≠ 権力の強化 *power consolidation*
- 権力の個人化は独裁者の権力独占をエリートが阻めなかった結果として発生

6

個人支配体制の形成：比較権威主義論の視点

- 独裁者への権力集中を阻めない理由：制度と状況
  - 制度的説明：制度に内在する問題（曖昧さ、非公式性）、政権誕生の経緯（特定の組織や制度の影響）
  - 状況的説明：独裁者とエリートの関係を変化させる状況の出現（クーデターの失敗、対外的危機）

7

習近平個人支配体制の形成：状況的説明

- 政権発足時の状況的特殊性
  - 国内外の危機状況と危機意識の共有
  - 胡錦濤の完全引退（総書記と軍事委員会主席）

8

習近平個人支配体制の形成：制度的説明

- 権力共有の制度化の欠陥または失敗
  - 習近平個人支配の形成は「集団指導体制」の制度的欠陥または機能不全の結果
- 従来の研究は、リーダーに与えられている公式的・非公式的権威と権限の大きさと重みを看過（会議主催・議題設定の権限、軍の統帥権）

9

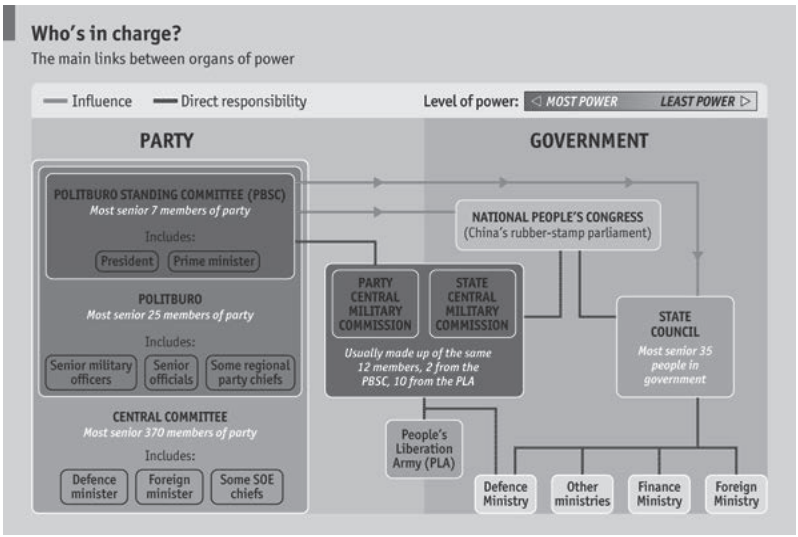
習近平個人支配体制の形成と人民解放軍

- 中国の党軍関係の制度的特徴
  - 軍組織の強い自律性
  - 軍に対する党のリーダーの「排他的」統制権

  （文民統制を保証する実質的メカニズムは党のリーダーが担当する中央軍事委員会の主席職が唯一）

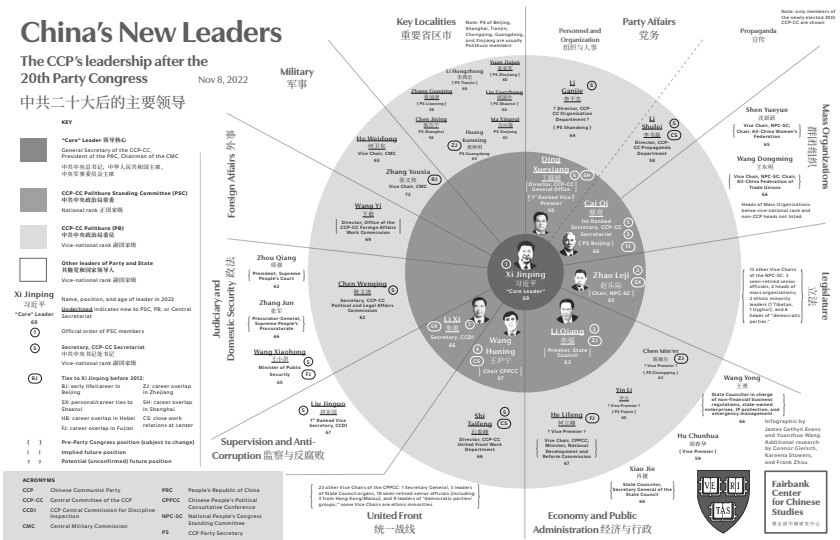
10

党の軍統制の構造（公式）



11

党の軍統制の構造（実態）



12

軍事改革と人民解放軍の変化

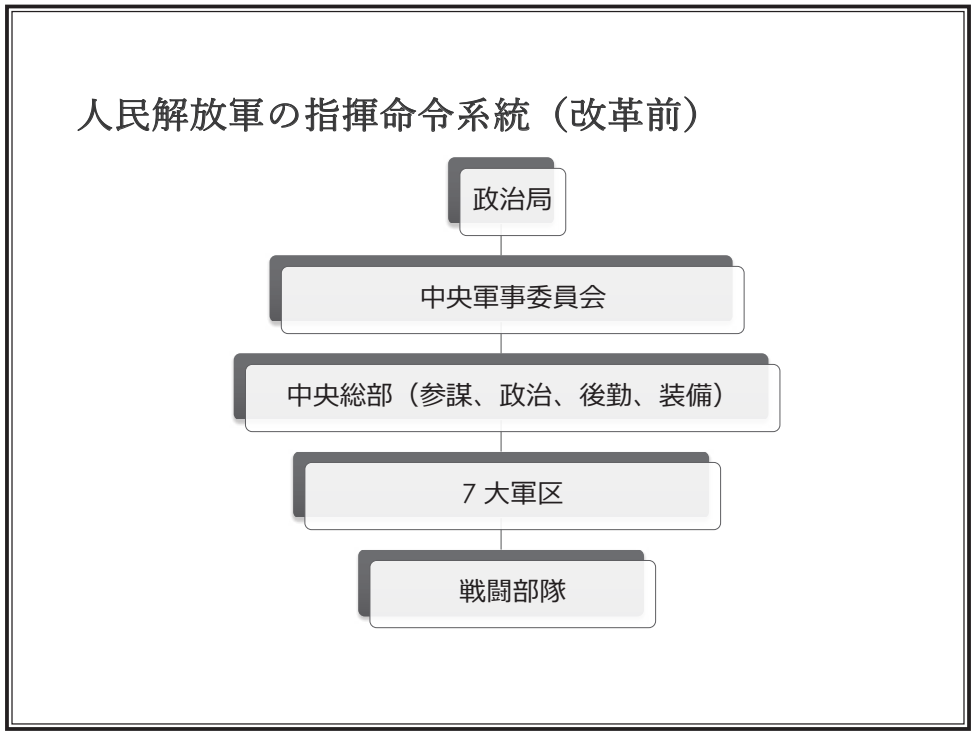
- 権力強化のための政治的冒険：反腐敗闘争と軍事改革
- 軍事改革の実行：二つの目標
  - 軍の戦争遂行能力の強化（米中競争の激化）
  - 党の軍統制の強化（軍内腐敗問題の解消）

13

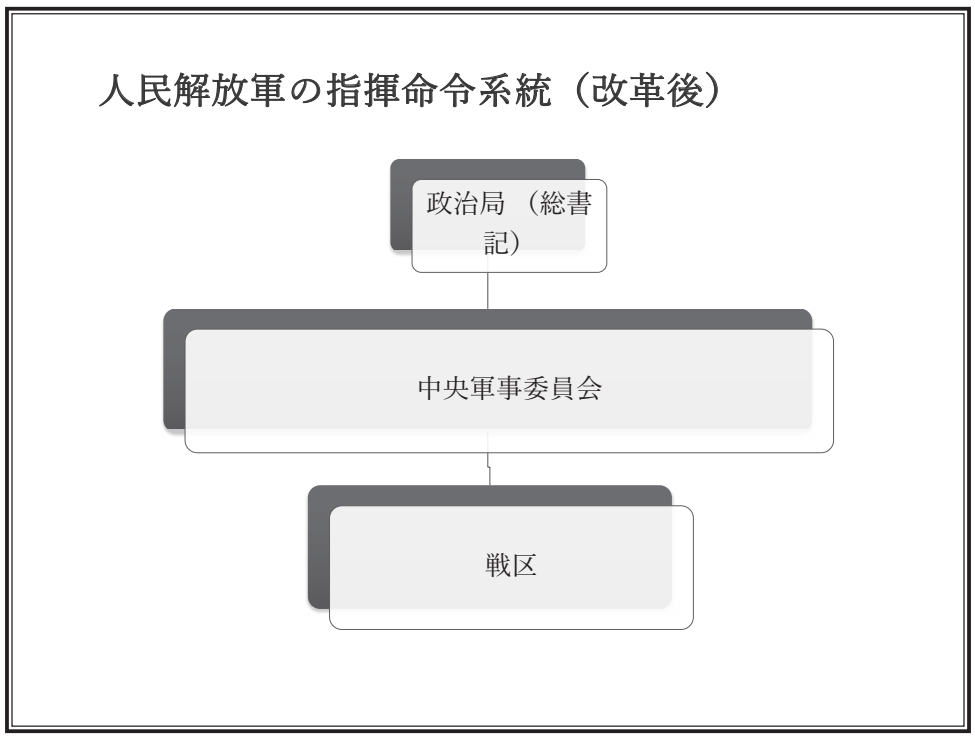
戦争遂行能力の強化：大規模な組織改革

- 「戦えて、勝てる」軍隊への巨大な変貌
- 連合作戦能力強化のための組織再編と役割変更
- 中央軍事委員会（総覧）・戦区（作戦）・軍種（部隊建設と管理）

14


人民解放軍の指揮命令系統（改革前）
政治局
中央軍事委員会
中央総部（参謀、政治、後勤、装備）
7 大軍区
戦闘部隊

15


人民解放軍の指揮命令系統（改革後）
政治局 （総書記）
中央軍事委員会
戦区

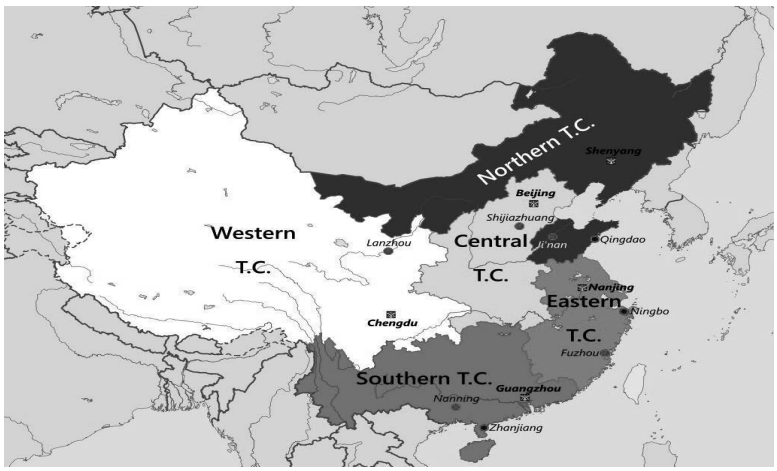
16

大軍区システム（改革前）



17

戦区システム（改革後）

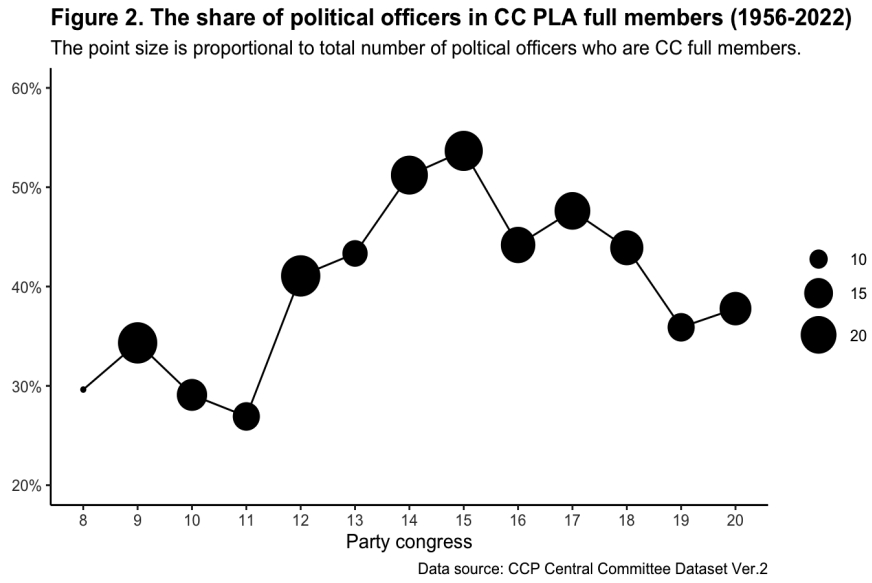


18

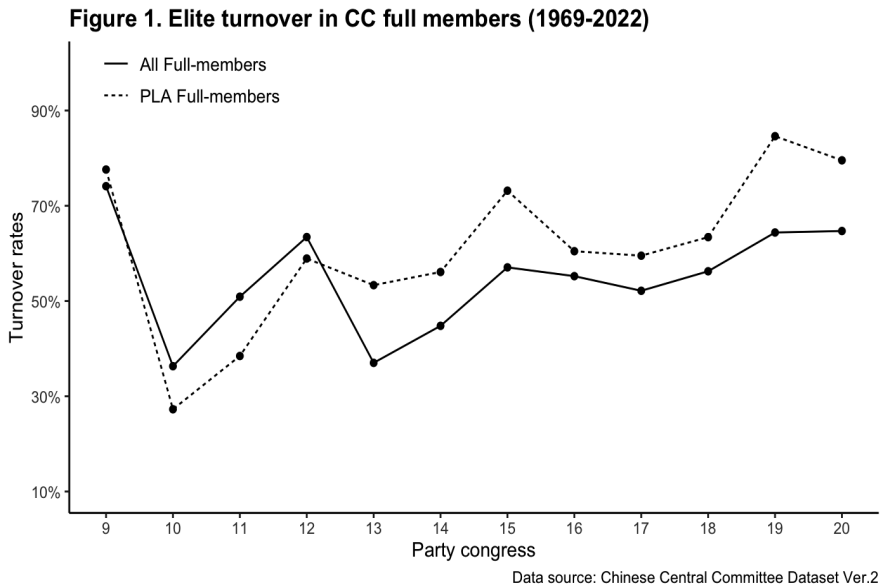
党の軍統制の強化：改革の不在

- 党による軍統制強化のための制度改革の不在
- 軍内における習近平「個人」の権威と権限の強化
  - 主席責任制に対する大々的な宣伝キャンペーン
  - 軍幹部人事に対する習近平個人の関与と審査方式の変更
- 軍内の政治工作系統の縮小・弱体化

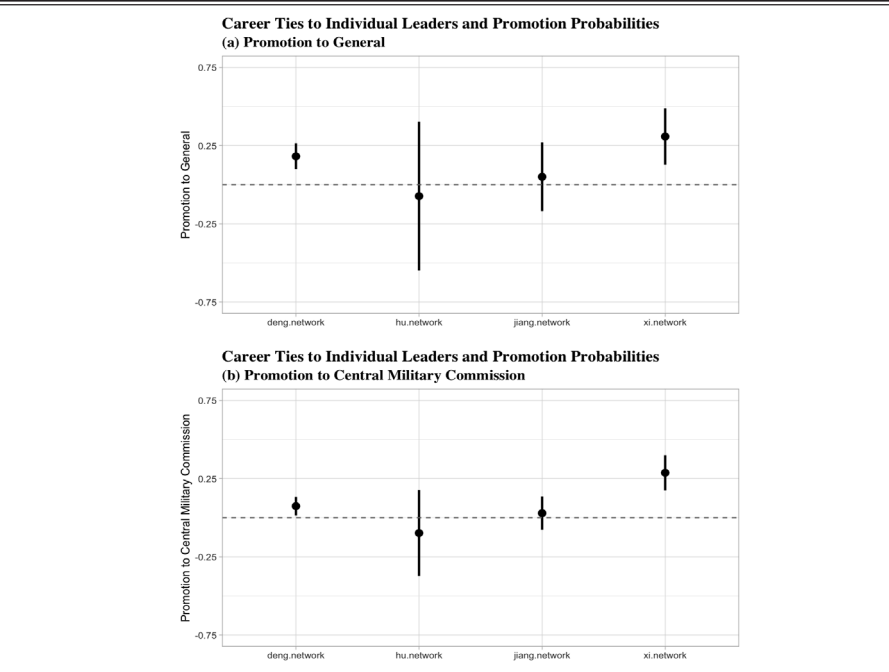
19



20



21



출전: Mattingly(2024)의 데이터를 재구성

22

個人支配体制と軍事改革の帰結

- 戦争遂行能力の向上のための大規模な組織・制度改革
- 人民解放軍の自律性は依然として不可侵の領域
  - 監視・監督を担当する軍外部の組織・制度の不在
- 軍内腐敗問題の持続：「消える将軍たち」(disappearing generals)

23

個人支配体制と人民解放軍の戦争能力（理論）

- 個人支配の強化 ➡ 軍事的効率性の低下 (Weeks 2014; Talmadge 2015)
- メカニズム①： Coup-proofing（軍内分裂の助長）
- メカニズム②：情報収集と伝達におけるバイアス（情報の質の低下）
- メカニズム③：人事及び政策決定におけるバイアス（軍事的能力＜政治的忠誠）

24

個人支配体制と人民解放軍の戦争能力（実態）

- 個人支配の強化 ≠ 軍事的効率性の低下
- 軍事改革の過程と成果：個人支配の強化は、解放軍の制度的自律性及び、軍事的専門性を侵害しない範囲内で（またはその前提の下で）実行
- 軍の近代化は既定の計画に基づいて進行（政治状況の流動化の影響に左右されない）

25

まとめ

- 個人支配体制の形成と軍：
  - 習近平は自らの権力強化と確立に軍統制の制度的権限を最大限活用
- 軍事改革と党軍関係の変容：
  - 党軍関係の観点から見て、軍事改革は党の軍統制の個人化に帰結→党の軍統制の制度的基盤はむしろ弱体化

26

まとめ

- 個人支配体制の確立と解放軍の戦争能力：
  - 個人支配の強化が軍の戦闘能力の低下をもたらすとは限らない
- 習近平「後」の中国政治と解放軍：
  - 権力継承をめぐる不確実性の増大が軍の政治的役割への期待につながる可能性が存在

27

参考文献

Ang, Yuen Yuen (2022) "How Resilient is CCP?" Journal of Democracy.

Feaver, Peter D. (2005) Armed Servants, Harvard University Press.

Geddes, et al. (2018) How Dictatorships Work, Cambridge University Press.

Lim, Jaehwan (2024) "Solving What Principal-Agent Problem?" Working paper series, Security Studies Unit, The University of Tokyo

Mattingly, Don (2024) "How the Party Commands the Gun," American Journal of Political Science.

Shirk, Susan (2018) "The Return to Personalistic Rule," Journal of Democracy.

Shirk, Susan (2022) Overreach, Oxford University Press.

Svolik, Milan (2012) The Politics of Authoritarian Rule, Cambridge University Press.

Talmadge, Caitlin (2015) The Dictator's Army, Cornell University Press.

Weeks, Jessica (2014) Dictators at War, Cornell University Press.

Wuthnow, Joel (2023) "Why Xi Jinping Doesn't Trust His Own Generals?" Foreign Affairs.

28